

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	生徒の学習意欲を高め、育成すべき資質・能力を踏まえた教育課程編成に取り組むとともに、課題解決に向けた主体的・協働的で、能動的な学びへと授業を改革し、学びの質を高め、その深まりを重視する組織的な授業改善を行う。	平成30年度入学生に向けた生徒の学習意欲を高め、育成すべき資質・能力を踏まえた教育課程編成の原案を作成する。	学習支援グループが中心となり、キャリア支援グループや各教科と連携を取りながら、原案を作成する。	平成30年度入学生に向けた生徒の学習意欲を高め、育成すべき資質・能力を踏まえた教育課程編成ができたか。	○職員全員にアンケートを実施し、現行の教育課程に関する意見を求めた。 ○アンケート結果を、一学期最後の職員会議で報告した。 ○各教科とのやりとりを経て、平成30年度入学生の教育課程の見直しをおこなった。	○平成34年度から実施予定である高等学校教育課程の全面改定に向けての準備をおこなう。 ○アクティブラーニングについては学校関係者からも期待されているので引き続き、情報を収集し全職員で検討、実践する必要がある。 ○平成30年度入学生に向けた教育課程編成だが、先行して取り組む授業があれば、試行し、その結果を盛り込むのも手法と思う。 ○「和装」「茶道」の授業評価が高い。「逆さま歴史」も含め、大いにPRしたほうが良い。 ○目標にある「組織的な授業改善」について、数値的に評価できる方法があると思う。 ○アクティブラーニングについては、高校では意識の転換等様々な課題があると思うが実施することで生徒の学習に対する姿勢が変わるのでぜひ積極的に取り組んでもらいたい。 ○問題解決学習は将来的に何事にも役立つと思われるので積極的に取り組んで欲しい。	○現在の生徒の実態、進路傾向、新学習指導要領等の情報等を基に各教科で検討を行った。それらを反映させた平成30年度入学生の教育課程の原案を作成し、各教科で再度検討したううえで、調整し、教育課程を作成した。 ○学習理解の遅い生徒向けや進学者向けなど様々な補修や講習を放課後・長期休業中におこなった。さらに受講者を増やすため、周知方法を含め、来年度に向けた工夫・改善の必要がある。 【その他】 ・アクティブラーニングについては学校関係者からも期待されているので、学校全体として指導方法の研究に取り組み、実践する。	○平成30年度入学生に向けた教育課程を踏まえて、平成34年度から実施予定である高等学校教育課程の全面改定に向けての準備をおこなう。 ○「逆さま歴史」等の研究を生かし、さらに、課題解決に向けた主体的・協働的で、能動的な学びへと授業の推進を行う。 【その他】 ・アクティブラーニングについては学校関係者からも期待されているので、学校全体として指導方法の研究に取り組み、実践する。	
2	①生徒の規範意識の醸成と基本的な生活習慣の定着を図り、生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図り、自他の大切さを認める人間性、社会性を育む。 ②生徒会活動・部活動の活性化を図り、生徒の自主性、意欲を高める。	①落ち着いた学習環境を目指し、遅刻や身だしなみの改善を図る。 ②部活動の充実を図る取り組みを推進する。	①生徒の規範意識の醸成を行うため、教員の共通理解を図り、遅刻者や身だしなみの指導に取り組む。 ②部活動への興味、関心を持たせる工夫に取り組む。	①遅刻者への対応を検証し、昨年度の遅刻者数より5%減少させることができたか。 ②部活動加入率について昨年度の遅刻者数(73.7%)を維持向上できたか。	①遅刻指導の形式を変え、週間を設けて指導をした結果、週の遅刻数を減少させることができた。 ②今年度7月現在で69.1%と昨年度を下回った。 ①生徒の模範意識の改善を促せるように、さらなる取り組みを考え実施していく必要がある。遅刻の原因の究明とその改善の検討、生徒会とのキャンペーン等を計画するなどの方策を行う必要がある。 ②年度当初は70.0%を超える加入率であるため、離部者を減らすことと2学期以降も加入に向け、生徒に呼び掛けていったが、あまり効果かなかった。今後は、減収の原因の究明とその対策を検討する必要がある。	①クラス単位で遅刻率を把握し、上位クラスを表彰するなどの取り組みはどうか。 ○将来のことを踏まえての指導、進路と絡ませる指導等を検討して欲しい。 ②生徒のニーズをくんだ新しい部活動の設立なども呼びかけてみてはどうか。 ○HPで部活動状況等を広報する。 ○部員の減少原因をしっかりと分析し、対応して欲しい。	①遅刻者の数をクラス毎に集計して掲示するという取組を昨年に引き続き行ったが、昨年度以上の成果は出なかった。 ○教員だけでなく、生徒や保護者と一緒に取り組める方策を検討する必要がある。 ②年間を通じて加入できる体制を作り加入を呼びかけたが、効果が出なかった。さらに、部活動に取り組みやすい環境づくりをする必要がある。 【その他】 ・いじめ防止会議やいじめアンケートを活用し、ケース会議等を行って、個々の生徒に応じた対応を検討した。	①生徒、保護者の意見等を踏まえ、職員が意識を合せて、取り組める方策を引き続き検討する。 ○生徒、保護者も交え、遅刻の要因を調査、検討する。 ②部室や活動場所の整備、部活動の運営等、生徒が安心して部活動に取り組める環境を整える取組を引き続き検討、実施する。 ○HP等を活用し、各部活の活動情報を発信する。	

3	進路指導・支援	「進学先の向こうにある社会」を意識させ、主体的に職業や生き方についての自覚を促すとともに生徒の希望進路が実現できるキャリア教育を行う。	生徒が主体的、積極的に取り組めるキャリア教育の構築を図る。	「第一希望の進路実現」に向けて、生徒が主体的・積極的に学習できるよう放課後自習室等の整備とその活用を推進する取り組みを行う。	生徒の自習室の利用頻度を高める取り組みができたか。	○自習室に大学入試過去問題集等を常備し、受験に向けた学習環境を整備した。	○放課後の学習場所として定着して来ている。日々十人程度の生徒が受験に向けた学習に取り組んでいる。また生徒の質問に対する指導の場としても利用されている。	○可能であれば、自習室が複数あると使いやすいのではないのでしょうか。 ○自習室の活用、機能の充実等をさらに検討して欲しい。	○自習室というハード面の環境は整い活用状況も増加したが、ソフト面（わからないことがあった場合に教員に質問できる時間等）の整備も必要である。 ○自習室に受験関係の書籍を置き、その活用を図った。放課後や長期休業中に行っている講習等との連携などの工夫も必要である。 ○職員室前での個別指導を有効に行えるようにするため、可動式の机等を設置した。	○自習している生徒が職員に質問しやすい体制作りについて検討する。 ○放課後や長期休業中に行っている講習の参加者を増やす工夫について検討する。
4	地域等との協働	① Web ページなど様々な広報媒体を使って、県民にわかりやすい情報を提供に努める。 ②分教室や地域との連携事業や奉仕活動などを通して、生徒に共生の意識を育成する。	①Web ページを通して、県民や地域に広報する機会を確保する。 ②生徒に地域連携や奉仕活動を通して共生の意識を持たせる。	①月に1回程度、年間を通じて10回の本校 Web サイトの更新を図る。 ②地域連携の調整・確認を組織的に行い、年間を通して地域連携や奉仕活動を計画し、実施する。	①年間10回の更新ができたか。 ②年間を通して地域連携や奉仕活動を計画通りに実施することができたか。	① 細かな更新（行事や部活動の結果などを随時行った。 ②年間を通して予定していた計画は企画通りに実施した。	①リンク切れや古い資料などの精選作業が課題となっている。 今後、サイトのリニューアルを検討する。 ②夏季休業中に実施していた地域貢献活動を時期と内容を変更して活動を継続していく。 また、他の活動についても同様に計画をする。	①目標年度を決めて携帯電話でも見やすい、Web サイトのリニューアルを検討して欲しい。 ○部活動や PTA の情報を提供するようにして欲しい。 ②地域との連携は今後も積極的に進められることを希望します。 ○高校生と小学生や中学生が交流することはたいへん貴重であった。 ○高校生が小学生等に「伝統文化」、「逆さま歴史」等を教えるような取組も良いのではないかと。	①HP の内容更新は適宜行ったが、HP 全体の見直しはできなかった。 ○まちコミ等を活用し保護者に学校の情報提供が定期的に行う努力を続けた。 ②校内で行われる学校行事については、分教室にも必ず声をかけて参加してもらうよう心がけた。 ○地域自治体の皆さんに学校行事に参加していただくと共に、夏祭りへの協力、防災訓練への参加等、積極的に交流を行った。	①HP が定期的に更新できるよう月間スケジュールに組み込むと共に、職員が簡単に更新できる仕組みや業務の位置づけを工夫する必要がある。 ②小学校、中学校との連携・交流を部活動単位だけでなく学校全体で、計画的に取り組む必要がある。
5	学校管理 学校運営	①学習環境の整備を推し進めるとともに、災害時に備えた防災体制の充実を図り、安心・安全で信頼される学校作りを推進する。 ②個人情報の取扱いについての研修等を通じてセキュリティ危機管理意識の向上と啓発に努めるとともに、事故・不祥事防止に取り組む。	①定期的な施設点検等を行い、破損・不具合の発見・修理を行う。 ②研修会を通して、個人情報の取り扱いなどセキュリティ上の認識を高める。 ③入試選抜の事故防止のための体制を再構築する。	①月に1回程度、担当者による呼びかけや点検を行い、破損・不具合の発見に努め、修理を行う。また事務室の担当と連携し、適切な執行に努める。 ②年6回の研修会を開催し、セキュリティの認識を高める。 ③入試選抜の体制・マニュアルの検討を行い、教員間の共通理解を図る。	①担当者の呼びかけや点検により、校内の施設・物品のすみやかな修理・更新等が行えたか。 ②研修会を開催することができたか。 ③入試選抜における事故防止に努めることができたか。	①担当者の点検等により、校内の施設・物品の修理・更新等は行えた。また事務室の担当と連携し、適切な執行を行えた。 ②ネットワーク環境が大幅に変更されるので9月以降に対応する予定であった。 ③本年度より選抜体制が大きく変わる。	①担当者による呼びかけが十分に行えていないので、日にちを特定して呼びかけを行い、修理・更新を徹底していく。 ②9月に、職員室内サーバの更新にともない、ネットワークの使用法を含めた簡単な研修を実施した。 ③ガイドラインや実施マニュアルにもとづいて実施した。	①場所ごとに担当者を決め、定期的な施設の点検をお願いします。 ・トイレに関してはまだ修理等が必要な場所が多いので引き続き対応してほしい。 ②研修会の成果を教職員全体で共有するしくみもぜひ検討ください。 ③入試選抜については毎年のごとのためたまない事故防止の点検をお願いします。	①担当者による不具合の点検・整備は定期的に行っているが、担当者以外からの報告が伝わらず、対応が遅れることがあった。また、だれがどのように対応するか明確でなくうまく機能しなかった。 ○清掃や不具合の報告について職員の意識をもっと高める必要があった。 ②実際のサーバの更新等の対応に追われ、第2回の研修会が実施できなかった。 ③入試選抜については、県からの指示を受けて、グループを中心に迅速に対応する体制ができた。 ○研修会を何度も開催し、職員へ業務の周知と的確な業務に遂行に努めた。	①不具合の発見・報告・修理の流れについて分かりやすく簡単な体制を構築し、全職員に周知する必要がある。 ○職員の清掃に関する意識を高め、生徒への指導を徹底する。 ②来年度も計画的に研修会を実施する。 ③本年度の経験を踏まえて体制・マニュアルの変更を行い、誤りのない入試選抜を実施する。